

「漆サミット 2012 in 浄法寺」

開催要項

1. 趣旨

「漆サミット 2012 in 浄法寺」は、文化財の保存修復に不可欠な植物性資材の一つである日本産漆が抱える現状や課題、最新の研究成果等について発表・討論・共有することで、ふるさと文化財の森「浄法寺漆林」や「浄法寺漆」をはじめとする日本国内のウルシ林や日本産漆の普及啓発を図ることを目的として実施するものです。

日本人は縄文時代から漆の優れた特性を知り生活の中で漆を使い、愛でてきました。

漆器はかつて中世の西洋において、「japan」と呼ばれていたほどで、日本は世界に誇る漆の国であると言えます。

中でも、岩手県二戸市は浄法寺町を中心として、民間と行政が連携してウルシの植栽や管理を進め、その独特な漆掻き技術により現在日本産漆の約8割を生産する国内最大の生産地として漆文化が根付いている地域であり、その漆は京都鹿苑寺金閣や日光二社一寺といった国宝や重要文化財の修理・修復に使用され、我が国の文化財保存に欠かせない存在となっています。

しかし、日本産漆の需要が落ち込んでいる中で生産量の減少傾向が続くとともに、ウルシ林の荒廃や漆掻き職人の高齢化が進んでおり、優良なウルシ原木の資源確保や後継者の確保は喫緊の課題となっています。また、「浄法寺漆」の一般消費者への認知度は極めて低いことから、積極的に普及宣伝し、認知度を高めていく必要があります。

本サミットは、こうした課題解決に向けた環境醸成を図ろうとするものであり、多くの皆様の参加を心から期待するものです。

2. 主催

漆サミット実行委員会（文化庁委託）、(独)森林総合研究所、岩手県二戸市

3. 共催(予定)

岩手県県北広域振興局、日本うるし掻き技術保存会、

4. 後援(予定)

林野庁、明治大学、岩手県浄法寺漆生産組合、日本産漆を支援する老木呂の会、二戸市社会福祉協議会浄法寺支所、ふれあいのまちづくり推進会、報道機関ほか

5. 期日

2012年（平成24年）10月12日（金）～10月14日（日）

6. 会場

岩手県二戸市浄法寺文化交流センターほか

7. 内容

二戸市が実施する「めっせうるしさま」の開催期間に合わせて実施する「漆サミット 2012 in 浄法寺」では、「文化財修復に果たす日本産漆の役割」（仮題）に関する基調講演のほか、「文化財の保存修復と日本産漆」（仮題）と題したパネルディスカッション、「地域活性化を目指した国産ウルシの持続的管理・生産技術の開発」の成果発表、学際的な「漆」に関するポスター発表、日本産漆の産地であることを活かしたウルシ林の見学や漆掻き体験、浄法寺漆共進会（品評会）等を予定しています。

8. 日程

第1日（平成24年10月12日・金）

11:45～ウルシ植栽地見学会（吉田）※定員40名

12:55～浄法寺漆器で味わう昼食会（浄門の里）

14:15～漆掻き体験（ふるさと文化財の森「浄法寺漆林」）

15:45～浄法寺歴史民俗資料館見学

第2日（平成24年10月13日・土）

9:00～浄法寺漆共進会（浄法寺福祉会館1階ホール）

12:00～ポスター発表（浄法寺文化交流センター）

13:00～開会式（浄法寺文化交流センター）

13:40～「地域活性化を目指した国産ウルシの持続的管理・生産技術の開発」成果報告

17:00～質疑

17:30～浄法寺漆共進会表彰式

18:30～交流会

第3日（平成24年10月14日・日）

9:00～ポスター発表

10:00～基調講演「文化財修復に果たす日本産漆の役割」（仮題）

講師：重要無形文化財「蒔絵」保持者（人間国宝） 室瀬和美先生

東京国立博物館学芸研究部保存修復課長 神庭信幸氏

12:00～ポスター発表

13:00～パネルディスカッション「文化財の保存修復と日本産漆」（仮題）

パネラー：名古屋工業大学 麓和善氏、堤浅吉漆店 堤孝氏、斎藤漆工藝 斎藤敏彦氏、日光社寺文化財保存会 佐藤則武氏、文化庁建造物課修復ご担当者

コーディネーター：建築装飾技術史研究所 窪寺茂氏

15:00～質疑

15:30～閉会式

9. 参加対象

“漆”関係者及び一般

10. 参加費

無料。(交流会を除く)

11. 事務局(問い合わせ・交流会申し込み先)

漆サミット実行委員会事務局：〒305-8687 茨城県つくば市松の里1

(独) 森林総合研究所 微生物生態研究室

田端 雅進

Tel: 029-829-8245

Fax: 029-874-3720

E-mail: 2012joboji@urushisummit.jp